

日本労働年鑑 第54集 1984年版
The Labour Year Book of Japan 1984

第一部 勤労者状態

V 農家の状態と農民の生活

1 農家と農家人口

3 農業従事者と兼業従事者

農業就業人口

「農業調査」による農業就業人口とは、一六歳以上の農家世帯員で「自家農業だけに従事した者と、農業とその他の仕事の両方に従事した者のうち農業が主である者」をいう。第55表によると、一九八二年一月一日現在の農業就業人口は、前年にくらべ一・三%減少し六六〇万人となった。これを男女別にみると、男子は〇・二%の減で二五七万人に、女子は一・九%減じ四〇三万人となった。この結果、農業就業人口に占める男子の割合は三九%、女子のそれは六一%となった。この数年女子の減少率が男子のそれを上回ってはいるが、いぜんとして女子のウェイトは高い。

これを年齢別にみると、前年にくらべ増加したのは六〇歳以上の高齢者のみで、他の年齢層はいずれも減少した。とくに大幅に減じたのは二〇～二九歳層の七・九%減、四〇～四九歳層の五・五%減であった。農業労働力の女性化傾向にくわえ老年化傾向はさらに進行した。ちなみに総農業就業人口に占める六〇歳以上の割合は三七%(二四五万人)となり、これに六〇歳以下の女子をふくめた割合は七八%(五一六万人)となった。

基幹的農業従事者

日常主として自家農業に従事した基幹的農業従事者を男女別・年齢別に示したのが第56表である。八二年一月一日現在の基幹的農業従事者は前年にくらべ二・二%減少し四一五万人となった。

これを年齢別にみると、六〇歳以下層は一貫して減少をつづけているが、六〇歳以上層は七九年以来増加に転じた。すなわち、一六～二九歳層は前年にくらべ一〇%減じ二四万人となり、総数に占める割合は六%に低下、三〇～五九歳層は三・四%減少し二七七万人となり、その割合は六七%に低下した。これに反し、六〇歳以上層は二・五%増加し一一四万人となり、その割合は前年を一・三ポイント上回り二八%となった。つぎに、この農業従事者を男女別年齢別にみると、前年男子は一万人弱の増加を示したのであるが本年再び減少した。しかし、女子の減少率二・九%にくらべその程度は低く一・五%減にとどまった。この結果、男子の占める割合は前年を一ポイント上回る四七%となった。基幹的農業従事者にしても農業就業人口と同じく、女性化の停滞傾向は明らかであるが、他方、その老齡化現象は急速に進行している。八二年一月現在の男子基幹農業労働力の三五%は六〇歳以上の老齡者であった。また、女子の六〇歳以上基幹労働力のウェイトは二一%にとどまっているが、その高まりは非常に速いことに留意すべきであろう。なお、女子と六〇歳以上男子の基幹的農業従事者は二八八万人で全体の七〇%であった。

兼業従事者

一六歳以上の農家世帯員で「雇われ兼業に年間三〇日以上従事するか、または年間七万円以上の販売収入のある自営兼業に従事」した者の兼業動向をみたのが第57・58表である。この表によると、兼業従事者は七九年以降減少に転じ、八二年一月一日現在、前年比二%減じ八一五万人となった。このうち雇用兼業は八三%を占め六七九万人、自営兼業は一七%で一三六万人となり、前年にくらべそれぞれ一・五%および四・四%の減であった。また雇用兼業従事者は男女ともに減少、男女別割合は男子六三%、女子三七%で前年と同じ構成であった。自営兼業の男女別割合も前年と同じく男子五九%、女子四一%であった。

つぎに雇用兼業従事者の兼業種類をみると、これまで一貫して増加していた「恒常的勤務」者がはじめて微減し四九〇万人となった。これは女子の勤務者が前年比〇・五%減じた結果であり、男子は〇・三%の増であった。この形態の兼業従事者は他の形態の停滞を反映して、年々そのウェイトを高め八二年一月現在、前年を一ポイント上回る七二%を占めた。この割合は男女ともに高く、前者は七四%、後者は六九%であった。他方、男子が九一%を占める「出稼ぎ」は年々減少し一二人となり、その割合も二%に低下した。同じく「日雇・臨時雇」も男女ともに減少、一七七万人になった。その割合は前年を一ポイント下回る二六%であった。

日本労働年鑑 第54集 1984年版

発行 1983年11月30日

編著 法政大学大原社会問題研究所

発行所 ●

2001年8月28日公開開始

■ ←前のページ 日本労働年鑑 1984年版(第54集)【目次】 次のページ→ ■
日本労働年鑑【総合案内】

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)
